

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300363		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	長崎県島原市南下川尻町8189番地2		
自己評価作成日	平成27年9月6日	評価結果市町村受理日	平成 27 年 12 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyoSyoCd=4270300363-00&PreCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 27 年 10 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

専門医による認知症ケア病棟を有する法人母体となる病院に併設されたホームで、日常の健康管理はもちろん認知症ケアに関しての医師の助言、急変時には協力医の対応も迅速に受けられて、医療連携が密に取れている。又、病院の栄養士からの栄養指導も受けられ、利用者・ご家族から安心と信頼を得ている。毎月発行するホーム便りでは生活状況、活動状況をご家族や地域の方々に配布して、ホームの理解と交流につなげている。年2回(春・秋)に開催する家族会にはほぼ全員が参加されて、利用者・ご家族・職員との交流も活発に行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、同法人の病院と併設しており、専門医による認知症ケアや健康管理の協力体制がある。入居者の体調不良時や急変時などは、看護師・協力医との医療連携が取れており、入居者・家族の安心に繋がっている。「なじみある地域の中で、老いても・障害を持っても、自分らしく暮らせるように」の基本理念のもとに、職員の話し合いにより介護理念を作り上げ、玄関や事務所に掲げている。ケア会議等を通じてどのような介護を実践できたかを振り返り、入居者を家族のように思い自立支援の実践に努めている。毎年家族会を開催し、5月には家族とのふれあいをテーマにレクリエーションを開催している。また、11月には茶話会の前日に家族の意見・要望を聞いて運営に活かされている。茶話会で家族や入居者・職員が楽しく語らうなど、交流を深めていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームふれあい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と介護理念に基づいた介護を心がけている。	基本理念に基づき、さらに入居者の自立に繋がる支援となるよう介護理念を作り、理念を玄関・事務所に掲げ、ミーティングの時や、ケア会議の時に、「どのような介護をしたか」職員間で振り返りながら介護の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、毎月ふれあい便りを回覧して頂いている。又、季節ごとの行事に参加して交流している。	地域住民として町内会に加入し、地域のお祭りや鬼火に参加している。また、中学校の職場体験や、町内の方が、饅頭作りを教えに来たり、自作のしめ縄飾りを持ってくるなどの慰問があり、地域と積極的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを配り認知症の理解や支援の方法を発信している。又、中学生の福祉体験学習を受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、町内会、ご家族の参加を頂き、それぞれの立場での意見をもらいサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、広域圏・町内会会長・町内住民2名・民生委員・居宅介護支援・家族会2名・入居者2名・職員の参加がある。運営状況・研修会・入居者の状況について報告・案内や、それらに関する助言および意見があり、運営に活かしている。また、次回開催予定日を知らせて参加を呼び掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員が運営推進会議に出席して頂き事業所の実情等を伝え、助言を頂き、協力関係を築くようにしている。	ホーム内で解決できない困難事例は、地域包括支援センターに相談して、課題解決に取り組んでいる。運営推進会議へ広域圏・民生委員が参加して、ホームの運営状況・入居者の活動などへ意見と助言を頂き、運営に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設病院の委員会にも出席して、毎月のケア会議等で話し合い。研修会には全員で参加している	同法人の併設病院の安全委員会や、行動制限最小化研修会などに参加して、職員全員で共有して、身体拘束をしないケアの実践に努めている。日中、玄関の施錠はしていないが、センサーを使用し、外出する際は見守りの支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会にも参加して全職員理解し防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会には参加し理解しているが活用の機会を得ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者・ご家族からお話を伺い、十分な説明を行い理解・納得を得るように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。又、家族会等で意見・要望を窺い対応している。	家族から家族会日程を早めに知りたいと要望があり、早めに連絡するように配慮し、入居者と雑談の中から「家に帰りたい」と言われる理由を聞き、ケア会議で話し合い、家族と共に墓参りに行くことで入居者の表情が穏やかになった事例がある。入居者や家族の意見を反映する支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやスタッフ会議で意見交換を行い運営に反映させている。	ミーティングの時に、オムツ・パッドの当て方や尿量・失禁量について、職員間で意見を出し合い、職員の提案を運営に反映している。希望休は月に3日位取れるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体法人で勤務表の管理がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院内外で研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島グループホーム協議会・島原支部協議会を通じサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前・入所後も利用者の不安なこと、要望等に傾聴し安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前家族の不安・要望を傾聴して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、他職員とも情報を共有して必要としている支援を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の一員としてお互いに協力し合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の絆を大切にし、面会に来れない家族には毎月、日々の様子をお便りでお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡したり、以前生活していた地域に車で出掛けたり、受診の帰りに立ち寄ったりしている。	2～3ヶ月に1回程度、入居者の友人の訪問があり、廊下に椅子を置いたり、食堂・居室などで会話を楽しめるよう配慮している。また、一時帰省や墓参り、遠方の家族と一緒にホテルで過ごすなど、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの能力・相性を考慮して席順を考えたり体調に応じた活動で利用者同士が支え合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、電話で連絡を取ったりして相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・ご家族の思いを大切に希望・意向の把握に努めている。利用者のご家族の意向が違いすぎることもあるが、利用者本位で検討している。	入居者の「どこでも行きたい。」との希望を把握して、スタッフ会議で話し合い、体調の良い時は・銀行・買い物(化粧品)に行くなど、入居者の思いや意向に沿って支援に努めている。管理者が入居者との雑談の中で、お墓の話が良く出てくるので、気持ちを汲み取り墓参りへ行ったこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・ご家族よりのアセスメントで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティング、ケア会議で情報の共有を図り現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、職員・利用者・ご家族の意見が反映できている。	面会の時に聞いた入居者・家族の希望や意見を反映し、管理者が作成した介護計画を基に、ケア会議で話し合い、見直しをして入居者・家族のサインと印鑑をもらっている。半年に1回、または入院時・介護度が変更になった時には随時計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った記録で日々の状態の変化が把握でき、共有できている。毎月のケア会議で見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	銀行や買い物に同行等のサービス、希望があれば訪問マッサージ利用の支援を行い支えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席された地域の方から色々と情報を頂き、毎日の暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望されるかかりつけ医に受診している。	入居者・家族の希望でかかりつけ医の受診支援をしている。受診の時は職員が同行し、バイタルチェック表を持参し、医師との共有を図っている。また、定期受診の結果は、1ヶ月に1回、請求書及びお便りと共に知らせている。緊急の場合は、家族にすぐに電話連絡を入れ、病院に来てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護を受けて適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携により病院関係者との情報交換や相談は密に行い、安心して治療を受け早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・ご家族と契約時に看取りについても話し合い十分な説明をして意向を踏まえ、意志を確認しながら取り組んでいる。	入所の時に重度化した場合や終末期になった場合には医療機関との連携について説明して家族の意向に沿うような支援に取り組んでいる。併設している病院があるので家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにそって対応するよう、全職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	月1回の避難訓練を行い、又、年2回の併設病院との共同訓練にも参加している。地域との共同体制もできている。	避難訓練を消防署立ち会いで2回の内1回は夜間出火想定して併設病院と合同で行い、独自に消防訓練や風水害訓練を行っている。IH調理器具を使って火事を出さないように配慮している。避難訓練では地域住民の参加はない。現在、備蓄について予算を法人本部からの決済待ちである。	避難訓練等の実施時には、地域との協力体制を築けるよう運営推進会議等を通じて、参加を促す等今後の取組に期待したい。また、備蓄の準備、消費期限を明記したリストの作成等、今後の備蓄品の整備に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導時の声かけ、失禁時の対応等で利用者のプライバシーを損ねないよう対応している。	入居者を苗字で～さんと呼んでいるが、同性の方には名前で呼ぶことがある。また、間違っただ対応や言葉掛けがあった時には、その都度職員間で注意をして人格を尊重した支援に努めている。居室に入室の際は「失礼します。」と声かけとノックをして入るように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや気持ちを引き出すために、最小の介護支援を心がけ、利用者の表出（意思・感情）を汲み取り、自己決定できるよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの希望に完全にそえるのは無理なところもあるが、状況に合わせてできるだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は気分転換もかねて少しおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事することで楽しいひとときを過ごし、後片付けもその人に応じ手伝って頂いている。	食事は併設している法人病院に委託している。時には食育で栽培した野菜（ピーマン・ししとう等）を、天ぷらや炒め物にして1品おかずを作ったり、おやつにプリン・牛乳豆腐・お好み焼き・たこ焼きなどを入居者と一緒に作っている。また、茶碗洗い・梅を漬ける等入居者はできる範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士によるバランスの取れた食事を提供し摂取量は記録を活用して、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。水分補給には気を使い確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは状態に応じて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせてトイレへ誘導し、おむつもその人に合ったのを使用しながら自立に向けているが、夜間は安眠がとれないとの意見もある。	一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレに誘導し排泄するように支援している。また、個人記録に排泄時間を付けて把握し、入居者に合わせてオムツ・パットを使用している。この取組により、リハパンツから布パンツに変更になった方もいて自立に向けた支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを確認し対応している。水分の補給や運動を働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まってはいるが、希望や必要な時は支援している。季節のゆず湯、菖蒲湯で楽しめることもある。	入浴チェック表を付けて、1日おきに午後から入浴している。レクリエーションや病院受診の時は変更する時がある。入浴拒否者には、理由を聞いて時間をずらしたり、入居者の健康状態により清拭をする等個々に沿った支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、生活習慣、リズム等の状態に応じた支援、又湯たんぽや使い慣れた毛布等の持ち込みをして頂き安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬表を個人記録に添付し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、後片付けのお手伝い。絵の色塗り、おやつ作りとその人に合った役割で気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できるだけ希望に沿うよう支援するようにしているが、調整が必要なときもあり、説明して後日にして頂くときもある。	入居者の希望で城の見学・スーパー・病院・銀行・化粧品を買いに行く等支援に取り組んでいる。風船バレーボール大会では弁当を外で食べて楽しんだり、天気の良い日は、ひょうたん池公園で散歩したり、押し車や車イスで散歩に出かけ、外気に触れて、子供達の遊んでいる可愛い姿を見て喜ばれるなど、外出を楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	銀行通帳を利用者が管理しており、お金の引き出しや買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話や携帯電話を使用してやりとりができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には椅子を置き雑談できるようにして、季節の壁画を掲示し、温度計、湿度計で管理して居心地よく過ごせるようにしている。	玄関に大きなゴムの木の鉢が置いてあり、廊下には折り紙で作った彼岸花・ブドウ・鳥などの壁画を飾り、季節感がある。また、居室の前に名前が書いてあったり、トイレの前には入居者に応じた目印を置いて場所が分かりやすいように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子で雑談したり、食堂で思い思いの場所に座り過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真を飾り、家族といっしょに畳の間でくつろいだりされている。	各居室には、クーラー、洗面台、ベッドが備え付けであり、居室の入口に入居者の好みでのれんを掛けている。居室フローリングに畳を敷いている部分があり、テレビや馴染みのタンス、家族の写真などが飾られていて居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせたベッドの位置、手すりの設置等の環境整備に努めている。		